

# 奈良県絶滅寸前種ヒメタイコウチを守れ！

## —食性から考える—

三輪観悟、奥村修次、奥西駿仁、竹島侑希、安田順登

Kango Miwa, Shuji Okumura, Hayato Okunishi, Yuki Takeshima, Junto Yasuda

奈良学園高等学校

【キーワード】ヒメタイコウチ, *nepa hofmanni*, 食性

### 1. はじめに

奈良県希少動植物で、奈良県絶滅寸前種に指定されている水生昆虫ヒメタイコウチ。個体数が少ない為はその生態には謎が多い。

また、そのために正しい保全方法などもよくわかっていない。今回の研究では、ヒメタイコウチがどのような食性であるかを調べた。

### 2. 目的

ヒメタイコウチが何を優先して捕食するのかを把握し、飼育に役立てる。

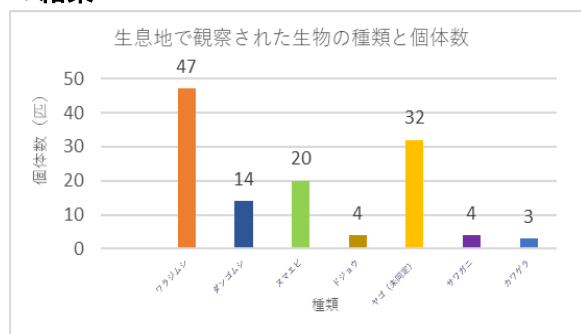
### 3. 方法

実際の生息地で生息している生物を調査した。奈良県内にある、ビオトープ内で2時間調査を行い、その間に見つけられた生物の種類と数を記録した。

また、生息していた生物の中で肉食性のものやヒメタイコウチを食べる可能性のある生物を除き、ヒメタイコウチに与えた。

それぞれ10匹ずつ与え、場所ごとに捕獲成功した獲物の数をはかり、ヒメタイコウチが捕獲場をどこに設定しており、何を優先的に食べるのかを推測した。

### 4. 結果



ワラジムシ、ダンゴムシ、ヌマエビ、マドジョウ、ヤゴ、サワガニ、カワゲラなどが発見できた。このうちヤゴ、サワガニなどは、ヒメタイコウチの捕食者としてはありうるが、被食者となることはない判断し、ヒメタイコウチに

与えるのは、ワラジムシ、ダンゴムシ、ヌマエビの3種に限った。

	ワラジムシ	ダンゴムシ	ヌマエビ
成功数 (匹) (水中)	6	5	1
成功数 (匹) (陸上)	4	3	2

二つ目の実験では、ヌマエビの捕獲成功率は非常に低かった。ほとんどが水中の方が捕獲成功率が高く、これはヒメタイコウチの目がやや上向きについており、水面に浮かぶ獲物が見やすいこと、ヒメタイコウチが獲物を捕獲するときの最も重要な目安である「獲物の動き」が分かりやすい為であると思われる。ワラジムシの方がやや、捕獲がしやすいように見えるが、有意差は見られない。

### 6. まとめ

ヒメタイコウチは、主としてワラジムシ類を捕食している可能性が高いが、その捕食場所は水中であると思われる。そのため、陸生のワラジムシだけでは捕獲成功率が担保できない。捕獲場所も含め、さらなる検討が必要である。